

長期「ひきこもり」への行動分析学的理念に基づく援助 ファーストステップ・ジョブグループ3年間の実践から

立命館大学応用人間科学研究科
対人援助学領域
障害・行動分析クラスター

「ひきこもり」の存在が近年社会的な関心を集めている。その援助は、厚生労働省により2003年に「10代・20代を中心とした『ひきこもり』をめぐる地域精神保健活動のガイドライン」が公開され、社会的認識のもとに、公的機関および民間においても様々な試みが行われるようになってきた。しかし、「ひきこもり」の特質上、そうした援助機関へ行くに至らないケースも多く、より長期化・高年齢化していく場合も多い。こうした長期化した「ひきこもり」に対する具体的な手立てや支援方法は提出されていない。「ひきこもり」を心的背景や生育歴といった個人の属性や歴史から捉え、個人の側の状態を変え現実環境に適応させる、あるいは「問題行動」としてのみ注目し減じることを優先させるといふ、治療・療法(医学モデル)でもなく、あるいは、マクロな社会問題(社会モデル)として、制度や機構の改革の中で、その制度や機構に則って個人を訓練していくものでもなく、行動を個人と環境との相互作用(Baer, 1976 参照)という単位で表し、その関係の中での「行動問題」として捉えること、そして、単に現状の分析を診断的に行なうのみでなく、「正の強化で維持される行動の選択肢の拡大を保障する環境設定を実現する」という具体的目標(Skinner, 1990; 望月, 1995)に沿ってプロアクティブ(「前進的」: 望月他, 1999)に対応していくことが、現在、求められる支援のあり方と考えられる。

本研究では、こうした行動的基本理念を具体化する援助設定の一つとして設立されたファーストステップ・ジョブグループの3年間の実践をたどり、その有効性を実証的に検証した。

ファーストステップ・ジョブグループは、ひきこもり当事者本人と親で構成され、親が活動の中心として、長期化した「ひきこもり」を対象に、社会参加に向けて自発的な行動を促していくことを目的とするものである。そこでは、今、ひきこもりのままででき、個人と社会との交換的関係に積極的に関わる行為として、そして、一方的に「与えられる」のではなく自分の力で「得る」ことになる「仕事」を配置し、「仕事をする」という行動の成立を援助する。具体的には、親と子でジョブユニットを作り、「家事手伝い」から始まる有償ジョブを当事者の親が自分の子ではなくグループの他者の子に提供するという関係の中で、最初の仕事行動を成立させ展開させていこうというものである。

仕事の配置は、行動主義の持つ対人援助に関わる価値観(Skinner, 1978)と、それに続く伝統的方法(Ayllon & Azrin, 1965)に基づくものと言える。Skinner(1978)は、事物を受け取ったり保有すること自体よりも自らが事物を得られることに「生活の質」の目標をおくこと、人に事物を与えることでなく彼等が事物を得るといふ条件設定で人を援助することを訴えている。そして、「正の強化」を目標行動達成のための「手段」としてではなく、生活の中で常に得られるように環境側に配置すべきという「目的」として捉えることの重

要性を主張する（望月，1995）。トークンエコノミーで知られる Ayllon & Azrin（1965）の研究は、病院生活の中で活動性の乏しい患者の今もっている行動レパトリの自発機会を強化子として、その行動の頻度を上げ維持しようというものである。トークンを用いた強化手続きで停滞した精神病院入院患者の自発的行動を強化するというこの実験は、反応形成の手段としてのみでなく、反応を促す機能として捉えることもできる。

本実践では、「今できる行動」を「今ひきこもりのままでできる仕事の遂行」と置き、選択肢として仕事メニューに記載し、毎月定期的に本人宛に仕事メニュー郵送による仕事の提示を行なった。その中から本人が選んだ仕事の遂行に対して賃金が支払われた。仕事メニューは、「繰り返し提示すること」や「否定選択肢」という設定を満たし、選択肢からの撤退も含め本人の選択決定を尊重（Nozaki & Mochizuki, 1995 ; Baer, 1998）するものとした。更に、今ひきこもりのままでできる仕事（今できる行動）をグループ内の家事手伝いからグループ外提供仕事・外部仕事へと徐々に選択肢を拡大しつつ提示した。3年の期間の中で、対象者6名において、仕事行動成立のべ人数50名、仕事行動成立個人数6名という、参加した当事者全員が何らかの仕事をするという成果を得た。うち1名は最初の社会参加に向け歩み出し、もう1名は外部仕事を継続的に行なっている。グループにおける展開、および、当事者別の展開を通して、絶えず「行動の機会」を提供しつづけることと絶えず「選択肢の拡大」をしつづけることの重要性が示された。

このことから、援助設定ファーストステップ・ジョブグループは、「正の強化で維持される行動の選択肢を拡大する」「そのように環境設定を整える」という目標に沿って「ひきこもり」に対応していくものであり、一つの支援のあり方として機能したと言える。そして、長期化した「ひきこもり」への援助がほとんど提出されていない現在、考えられる有効的な援助の一つとして社会に向けて提示するものである。